



特集 使ってみよう「ストーマ装具選択基準」-役立つ時期別ストーマ装具の選択-

セルフケア指導開始時から退院前における尿路系ストーマ装具選択

守屋 薫

戸田中央総合病院 看護部 褥瘡管理専従管理者、皮膚・排泄ケア認定看護師

Point

- ▶ 尿路系ストーマ造設術後の装具選択のポイントがわかる
- ▶ 尿路系ストーマ造設術後の装具選択した事例の選択ポイントがわかる

はじめに

筆者が勤務する病院では、尿管皮膚瘻・回腸導管の尿路系ストーマ造設術の件数は年間約15件程度と多くはないため、日常的に尿路ストーマに関してケアがおこなわれているわけではありません。このため、関わる外来・病棟スタッフが装具選択

をおこなう際は、手術直後1週間目以降から退院までの尿路系ストーマ装具選択基準のフローを作成し、検討・対応しています。本章では、原則としている基本的な尿路系ストーマ装具選択と、当院の現状を紹介します。

尿路系ストーマ装具選択の基本

尿路ストーマ装具選択基準として、文献¹⁾を参考にしたものを、当院のフローの原則としています。まず、面板の皮膚保護剤は、耐久性が中期用(3~5日)から長期用(5~7日)の皮膚保護剤の尿路用のストーマ装具とストーマ袋を選択します。

そして、はじめに平面型装具を選択し、他の要因である皺、腹壁の硬さなどがあるときには凸面型装具を検討します。そして回腸導管時は、ストーマの高さが10 mm以上のときには平面型装具、9 mm以下のときに凸面型装具の選択を検討します

が、ストーマの高さが10 mm以上であってもストーマから4 cm以内のストーマに連結する皺などがあると近接部の密着の強化が必要なため、凸面型装具を選択することもあります。逆にストーマ周囲が陥凹しているときは凸面型装具を、ストーマ周囲皮膚が山型/平坦のときは平面型装具を選択します。さらに密着性、耐久性の強化のためにベルトや用手成形練状皮膚保護剤などの使用を考慮します。その他に、術後であれば装着時に創痛がなく観

察が容易であるか、カテーテル挿入が継続するようであれば装具交換時に抜けないように管理しやすいか、逆行性感染を予防できる逆流防止弁付きであるか、生活スタイルや活動性に沿った、腹壁に合う装具と蓄尿袋であるか、その排出口や接続管の操作性が容易かなど、視力や巧緻性へ配慮した選択も重要です²⁾。また、1人でセルフケアができないときは家族や第3者が介入したときに介助しやすいよう、さらに装具にかかる費用にも考慮した装具選択が必要となります。

当院の尿路系ストーマ装具選択の基準

当院では図1の流れで装具選択をおこないます。手術直後は、カテーテル挿入に対する操作性と観察がしやすいサージドレーン・オープントップ(ポストオペ-M)(アルケア)を使用します。

当院は術後に回腸導管だけでなく、尿管皮膚瘻でもカテーテルを挿入されていることが多いため、手術後6日目前後のカテーテル抜去の有無を装具選択の目安としています。とくにカテーテル挿入

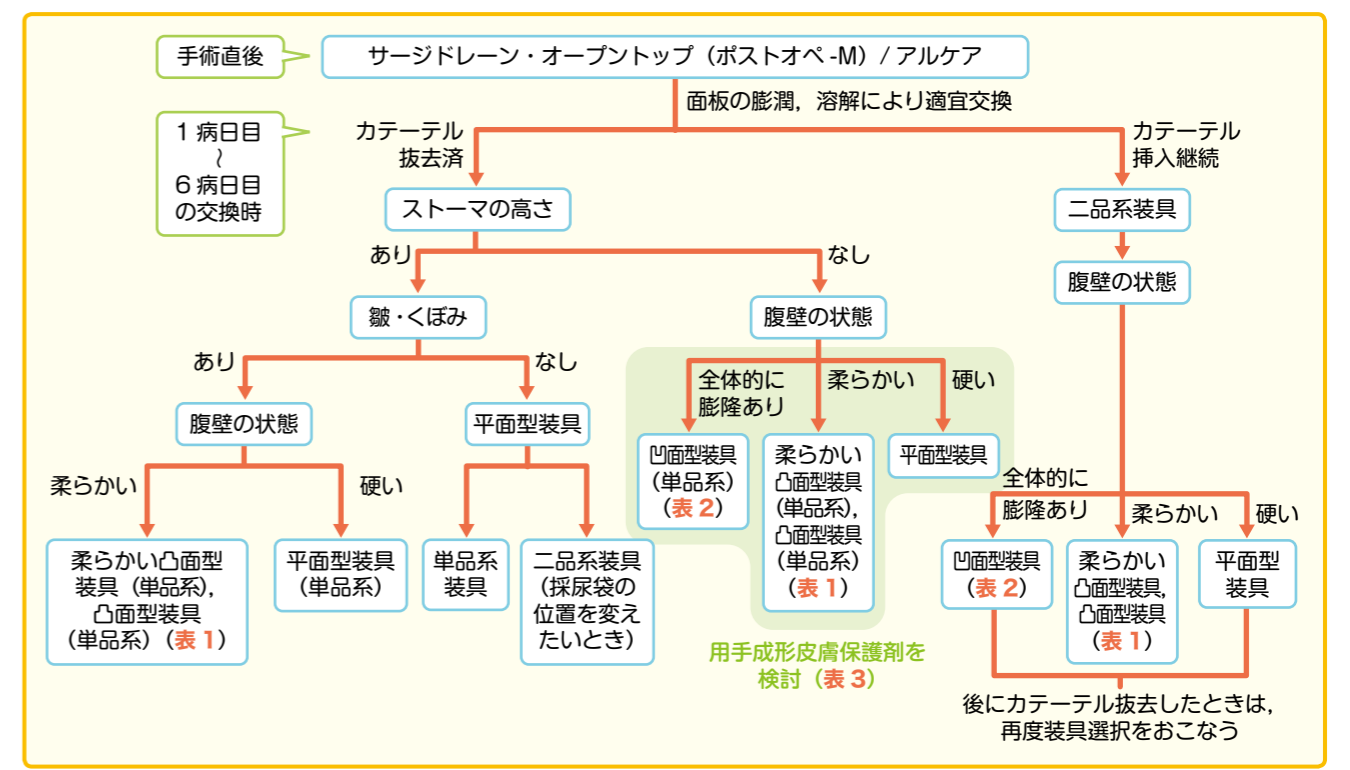


図1 当院の装具選択の基準